

ささえ愛

北宇和高等学校
人権委員会
2025 6月号

6月12日(木)に人権・同和教育ホームルーム活動を実施しました。1年生は「よりよい人間関係」、2年生は「人権獲得の歴史Ⅱ」、3年生は「確かな進路保障のために」をテーマに学習しています。人権委員による感想の一部を紹介します。



1-1

心が落ち着かない時や不安な時に、相手が傷つく不適切な表現をしないように気を付けようと思った。



1-2

相手のことも自分のことも大切にできるアサーティブなコミュニケーションがとれるように意識していきたい。



1-3

表現の仕方ですぐに相手が嫌な気持ちになったり自分が嫌な気持ちになったりするというのが印象に残った。相手の気持ちを考えて発言していきたい。



2-1

児島惟謙さんのように社会や周りの風潮に流されず、差別をしない人間になりたいと思った。



2-2

差別をしないようにしようと思ったし、差別をしているところを見たら止める人間になりたいと思った。



2-3

部落差別について学び、やっぱり人間はみんな平等で差別はいけないことだと強く思った。



3-1

面接で不適切な質問があったら、はっきり答えられないと伝えられるようにこれから励んでいきたい。



3-2

面接で不適切な質問に気付いたら、差別につながるから答えることができないと必ず言う。



3-3

不適切な質問に黙るのもダメだとわかった。今回学んだことを思い出して応えていきたい。

※ 人権だより「ささえ愛」では皆さんの感想、人権についての考えを募集しています。

感想・意見 () 年 () 組 ()

切り取り線

人権・同和教育ホームルーム活動を通して

人権・同和教育課 桑原 恵子

「男の子なんだから〇〇しないの」「女の子なんだから〇〇しなさい」——子どものころ、こんな大人の何気ない言葉に、ふと「どうして？」と違和感を覚えたことがあります。今振り返ると、そこには性別に基づく無意識の偏見や差別が含まれていて、それに疑問を抱いたのかもしれませんが。その小さな違和感が、私にとって「平等や人権って何だろう？」と考えるきっかけになりました。そして、学生時代の人権・同和教育のホームルーム活動では、部落差別や性差別、障がいのある方への偏見、在日外国人の人権など、多様な問題について学びました。こうした学びを通して、自分の中に少しずつ人権意識が育まれていったと感じています。

今年5月に実施した1年生対象の「人権・同和教育に関するアンケート」では、生徒たちが人権・同和教育についてどのようなイメージを持っているかなどを知ることができました。その結果からは、まだ課題があることも分かりました。続く6月のホームルーム活動では、多くの生徒が真剣な表情で人権問題に向き合い、熱心に意見を交わす姿が見られました。

本校の人権・同和教育には、まだ改善できることもあります。しかし、人権・同和教育ホームルーム活動を通して、生徒たちは自分とは異なる立場の人々の思いや状況に目を向け、話し合いや発表を重ねながら理解を深めています。その様子から、一人ひとりが人権と真摯に向き合っていることが伝わり、人権・同和教育ホームルーム活動の重要性を改めて実感しました。これからも、人権・同和教育ホームルーム活動を通して正しい知識を身に付けるだけでなく、人権意識を高め、差別や偏見に対して「おかしい」と声をあげる勇気や、他者を思いやる優しさを育ててほしいと願っています。

5月号の感想を紹介します。

- ・人権について深く考え、知り、自分の意見をしっかりと持てるようになりたいと思いました。
- ・多様性を大切にしていきたいと思っています。みんなが自分の個性を大切にすることで、気持ちが楽になって生きやすくなると思っています。
- ・差別やいじめが私たちの知らないところにたくさんあると思うと、早くなくなってほしいと思いました。そして、できることは私たちそれぞれでしていきたいと思っています。
- ・気付かないうちに、いじめの加害者にならないように、これからも今より慎重にインターネットを使いたいと思います。

5月号は人権委員長によるいじめや差別をなくしたいという記事でしたね。

